

2019年4月4日 全4頁

世界全体の ESG 投資残高は 31 兆ドルに

GSIA “2018 GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT REVIEW”より

金融調査部 SDGs コンサルティング室
主任研究員 太田珠美

[要約]

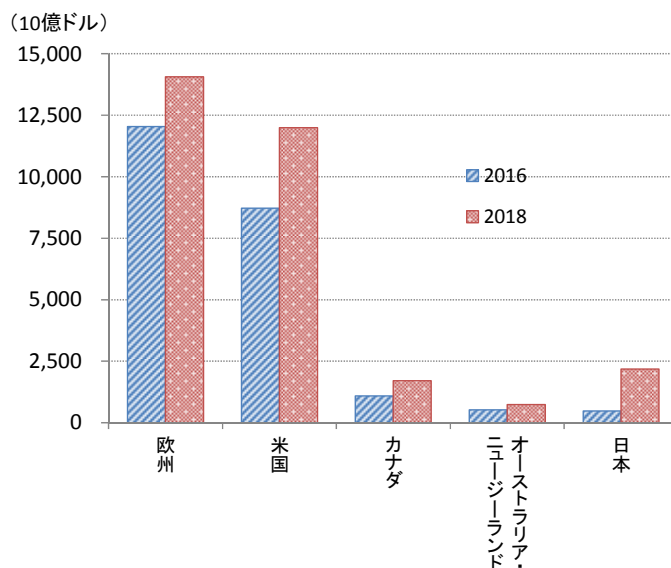
- GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT ALLIANCE から “2018 GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT REVIEW” が公表された。2017 年末時点（日本のみ 2018 年 3 月末時点）の世界全体の ESG 投資残高は 31 兆ドルで、前回の報告書（2015 年末時点の数値）の 23 兆ドルから 34% 増加した。日本の ESG 投資残高は 2.2 兆ドルで、前回の報告書から 360%増加している。
- 投資手法別の残高をみると、ネガティブ・スクリーニングが最も多く、次いで ESG インテグレーションとなっている。サステナブル・テーマ投資の残高は、全体から見れば小さいものの、最も高い伸び率であった（前回報告書比で 269%の増加）。
- 欧州において、ESG 投資残高は増加している一方で、運用資産全体に占める ESG 投資残高の比率は低下傾向にある。欧州委員会ではサステナブルファイナンスに関するルールについて、様々な議論が進行中であり、これら一連の動きが ESG 投資比率の低下に影響している可能性も考えられる。今後の欧州委員会の制度設計の動き、またそれを受けた EU 域内の機関投資家・アセットオーナーの動向に注目したい。

世界の ESG 投資残高は 31 兆ドル

GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT ALLIANCE (GSIA) から “2018 GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT REVIEW” が公表された。2017 年末時点（日本のみ 2018 年 3 月末時点）の世界全体の ESG 投資残高は 31 兆ドルで、前回の報告書（2015 年末）の 23 兆ドルから 34%増加し、全地域で増加が確認できた（図表 1）。

日本の ESG 投資残高は 2.2 兆ドルで、前回の報告書から 360%増加している。これは 2018 年 12 月に日本サステナブル投資フォーラムから公表した数値が基になっており、日本円では 232 兆円である。日本の ESG 投資残高が増えたのは、2015 年に GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）が国連 PRI に署名して以降、ESG 投資に対する関心が高まったことや、2014 年に策定された日本版スチュワードシップ・コードの運用が深化し、機関投資家によるスチュワードシップ活動が拡大したことなどが背景にあるものとみられる¹。

図表 1 地域別の ESG 投資残高



(注) 年数は報告書の公表年であり、数値自体は前年末（日本は前年度末）の数値。

(出所) GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT ALLIANCE “2018 GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT REVIEW” より大和総研作成

ESG インテグレーションの存在感が高まる

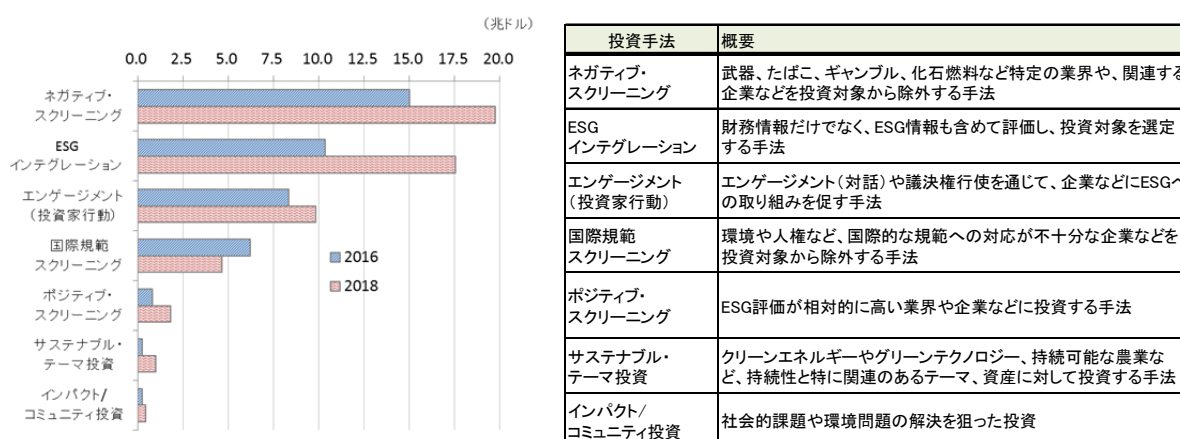
投資手法別の残高を見ると、従来通りネガティブ・スクリーニングが最も多い（図表 2）。しかし、伸び率（2015 年末比）で見ると、ネガティブ・スクリーニングが 31%増であるのに対し、ESG インテグレーションは 69%増と相対的に高い。近年、ETF などパッシブ運用が拡大傾向にあ

¹ ESG 投資残高の把握は機関投資家に対する調査で行われている。残高の増加は、新たに ESG 投資が行われたものに加え、資産価格の変動や、従来 ESG 投資として把握されていなかったものが、改めて考え方を整理して ESG 投資として集計し直されているケースもあるものとみられる。また、回答する機関投資家の数自体の増減も影響し得る。

り、何らかの ESG 要素を考慮する指数などの開発も活発である。パッシブ運用において ESG を考慮する場合、ESG インテグレーションに分類されるものと考えられ、ESG インテグレーションの残高増加の一因になっているものと考えられる。また、ネガティブ・スクリーニングは投資対象から除外した企業と、それ以降の接点がなくなってしまう。投資を続けたまま、エンゲージメントや議決権行使等を通じて企業価値を向上させるよう働きかけた方が、社会にとっては良いのではないかという見方もあり、ネガティブ・スクリーニングの増加が相対的に抑えられている可能性もあるだろう。

サステナブル・テーマ投資の残高は、全体から見れば小さいものの、最も高い伸び率であった（前回調査比で 269%の増加）。これにはグリーンボンド・ソーシャルボンド・サステナビリティボンド（もしくはローン）への投資が含まれるものとみられ、これらの発行額が増加していることとも整合的である（図表 3）。

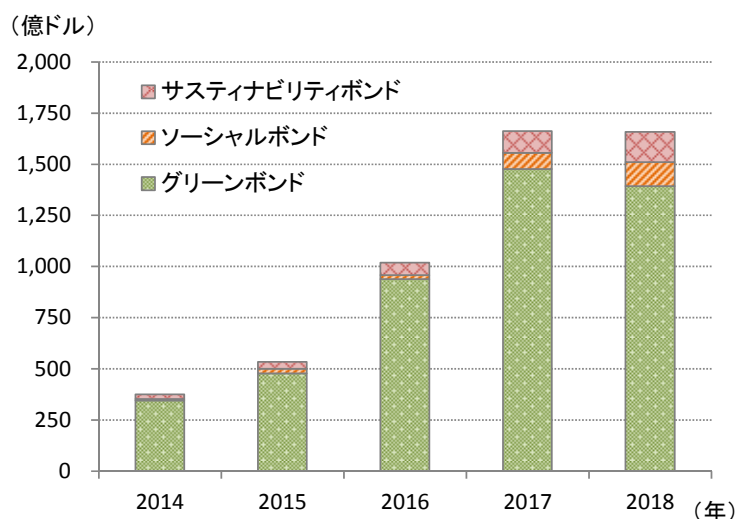
図表 2 投資手法別の残高



(注) 年数は報告書の公表年であり、数値自体は前年末（日本は前年度末）の数値。

(出所) GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT ALLIANCE“2018 GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT REVIEW”より大和総研作成

図表 3 グリーンボンド等の発行額の推移

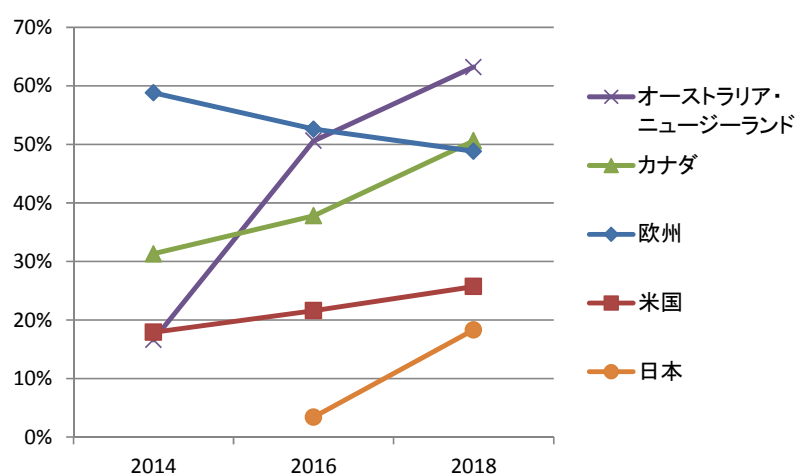


(出所) Bloomberg より大和総研作成

EUにおけるESG投資の行方

これまで見てきたとおり、ESG投資残高は世界的に増加しているが、運用資産全体に占めるESG投資の比率に関しては、欧州で若干の低下が確認された（図表4）。欧州委員会ではサステナブルファイナンスに関するルール作りについて、様々な議論が行われている。2016年末にはサステナブルファイナンスについてのハイレベル専門家グループが設立され、2017年7月に中間報告書、2018年1月に最終報告書が公表されている。また、それらを受けて2018年3月には欧州委員会からアクションプランも公表された。アクションプランには、サステナブル金融商品の基準・ラベルの整備や、持続可能なプロジェクトへの投資促進、サステナブルベンチマークの整備などに加え、持続可能性に対する機関投資家やアセットオーナーの義務の明確化も盛り込まれている。今回GSIAから公表された報告書では欧州でのESG投資比率の低下について、これら一連の動きが影響している可能性を指摘している。今後の欧州委員会の制度設計の動き、またそれを受けたEU域内の機関投資家・アセットオーナーの動向に注目したい。

図表4 運用資産に占めるESG投資残高の比率



（注）横軸は報告書の公表年であり、数値自体は前年末（日本は前年度末）の数値。

（出所）GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT ALLIANCE “2018 GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT REVIEW” より大和総研作成